

## 実質収支の推移とて年度収支・積立金・繰上償還金・積立取崩額の推移 2016.0213 財政課からの回答

### 1. 添付ファイル1ページ目

実質収支と翌年度に繰り越すべき財源のグラフで、2008年の翌年度繰越財源がとびぬけて大きい原因はどのようなことなのでしょう？

→主な要因としては定額給付金に係る財源を繰り越したことによるものです。

平成20年度に定額給付金にかかる国からの補助金を受けました。

ただし、給付を行うのは平成21年度であったため、それに要する財源として、

平成20年度に収入した補助金のうち2,837,951千円を繰越しました。

※定額給付金関連経費以外にも、平成20年度収入のものを平成21年度の財源とする事案があり、繰り越すべき財源総額で2,848,219千円となりました。

### 2. 添付ファイル2ページ目

単年度収支と実質収支の推移（上のグラフ）で、

実質収支（折れ線グラフ）H12年、H21年が大きくなっている原因

H22はそれに比べて下がっている原因とそれ以降伸びているのは

どうしてなのでしょう？

→いずれも形式収支が影響しているものと考えられます。

形式収支は歳入歳出差引額（歳入総額－歳出総額）のことです。

予算で見込んでいた歳入が実際にはもう少し多く収入できたり、歳出予算額よりも

少なく執行できたりなど、予算額と実際に執行した額との差が開くほど、

形式収支は大きくなります。

平成12年度は歳入では市税が予算現額に比べて6億100万円超過するなど、総額で

8億3,000万円超過（このうち200万円が翌年度へ繰り越すべき財源）し、

歳出決算額は予算現額から8億6,500万円の減となりました。形式収支16億9,500万円に

対して、翌年度へ繰り越すべき財源は200万円でしたので、実質収支は16億9,300万円と

なりました。平成12年度決算の特徴としては、歳入では普通交付税の交付団体に移行して2

年目の年でしたが、前年度よりも地方交付税が2億4,500万円の減、歳出では、介護保険特

別会計創設に伴い老人介護関係経費が減となったこと等を受け、民生費が22億4,900万円の

減となるなど、歳入・歳出決算額ともに前年度決算よりも減となりました。

平成21年度は歳入決算額が予算現額に比べて2億3,500万円超過（このうち1,300万円が

翌年度へ繰り越すべき財源）し、歳出決算額では予算現額から15億5,000万円の減

（このうち2億6,600万円が翌年度繰越額）が生じました。形式収支17億8,500万円に

対して、翌年度へ繰り越すべき財源は1,300万円でしたので、実質収支は17億7,200万円と

なりました。平成 21 年度の決算の特徴点としては、前年度にあたる平成 20 年度後半に生じたリーマンショックからの厳しい経済情勢の影響を受け、法人市民税をはじめ市税が前年度に比べ 10 億 4,000 万円の大幅な減となり、その分、臨時財政対策債の借入を前年度より 10 億 2,500 万円増やすことなどにより対応せざるを得ませんでした。

なお、平成 12・21 年度において予算現額に比べて歳出が減となった主な理由については別添「決算特別委員会参考資料集」の「決算額が予算現額に比べ著しく減の理由」のページに、一般会計の款項目ベースでの記載がございます。

逆に、平成 22 年度は特に 4 億 2,400 万円の歳入欠損（予算額よりも決算額が減）があったことが大きく影響しており、歳出では予算現額よりも 11 億 700 万円の減（このうち翌年度繰越事業費が 8,900 万円）となったことから、形式収支が前年度の半分以下（このうち翌年度へ繰り越すべき財源は 3,900 万円）であったため、実質収支も前年度より小さくなりました。翌年度へ繰り越すべき財源を考慮しても、このように予算現額に対して歳入・歳出決算が大きくかい離すると、実質収支が大きくなると言えます。

平成 23 年度は繰越事業の関係で平成 22 年度以上に歳入・歳出ともに予算現額に比べて減となりましたが、歳出の減が歳入の減を上回る額だったため、実質収支では平成 22 年度以上の実質収支となりました。

なお、それ以降は、平成 22 年度のような歳入欠損額にはならなかったことから、繰越金が大きくなり実質収支については伸びている状況です。市税収入の推移をみても、日本経済の緩やかな回復に合わせて着実に回復していることがうかがえ、平成 26 年度決算額ではリーマンショックの影響を受ける前の状況を超える 310 億 1,700 万円となりました。

### 3. 添付ファイル 2 ページ目

Q 単年度収支と実質単年度収支の推移で H9 年の実質単年度収支が大きくなっているのと H22 年がマイナスになっているのはなぜなのでしょう？

A 平成 9 年度は単年度収支はマイナスだったものの、財政調整基金等の積立（17 億 3,756 万 7 千円）と、後年度の公債費負担の軽減を図るために、高利市債の繰上償還及び低利への借換を実施したこと（20 億 4,481 万 6 千円）により実質単年度収支がプラスに転じているものです。

平成 22 年度は子ども手当が創出されたこと、経済情勢の影響もあり生活保護費が増加したことにより民生費の決算額が増加しています（平成 21 年度に比べて 42 億 5,600 万円の増）。実質収支ではプラスのもの、前年度からの繰越金（前年度の実質収支）を差し引いて単年度収支にするとマイナスになる状態でした。

これに加えて、決算カードのとおり、積立金取崩し額よりも積立金の方が多かったため、実質単年度収支についてもマイナスとなったところです。

小平市 企画政策部 財政課 宮寺 TEL 042-346-9504 FAX 042-346-9513  
E-mail [zaisei@city.kodaira.lg.jp](mailto:zaisei@city.kodaira.lg.jp)